

主体的・対話的で深い学びの授業を体験 52名の参加者が試行錯誤しながら演武を創作

第13回全国少林寺拳法指導者研修会



第13回全国少林寺拳法指導者研修会（主催＝日本武道館、少林寺拳法連盟、後援＝スポーツ庁）が9月13～15日の日程で、会場の日本武道館研修センターに52名（うち、少林寺拳法授業実施者14名）の参加者が集まって実施された。

本研修会は、少林寺拳法を指導する指導者等を対象に、中学校武道授業に対応するとともに、少林寺拳法の指導者としての技能・資質の向上を図る目的で行われた。各講義ごとに現在の学校現場で必要な実践法や課題を講師が提示。後半には、グループごとにテーマを設定し試行錯誤しながら演武を創作。最後に、各グループとも機知に富んだ演武を発表した。

◇実施内容

1日目：講義「中学校武道（少林寺拳法）授業で伝えたいこと」（中島正樹）

講義・実技「模擬授業『主体的・対話的で深い学び』の体験」（中村優一）

基本動作確認、グループ分け、振り返りの討議

2日目：講義・実技「子どもたち・保健体育教員・外部指導者のアンケート調査に基づく実践」（宮崎貴臣）

「道徳統合型の授業～考える機会を作る、考える時間を作る～」（久根下直樹）

「安全で楽しくまじめな授業、少林寺拳法授業の基礎」（小井寿史）

講義「インクルーシブな授業づくりのヒント」（桑島 亜紀）

実習「授業づくり（グループ活動）～生徒が楽しく学べる授業～」

振り返りの討議

3日目：実習「演武組成・演武発表」

振り返りの討議

◇講師一覧

・講師

中島 正樹（中学校武道授業推進委員会委員長、全国中学校少林寺拳法連盟副会長、富士見丘中学校・高等学校教諭）

安田 智幸（中学校武道授業推進委員会委員、全国中学校少林寺拳法連盟理事長、金光学園中学・高等学校教頭）

小井 寿史（中学校武道授業推進委員会委員、岡山県公立校元校長、笠岡市立金浦中学校主幹教諭）

桑島 亜紀（中学校武道授業推進委員会委員、長野県松本養護学校教頭）

中村 優一（中学校武道授業推進委員会委員、江戸川区立小岩第三中学校主幹教諭）

宮崎 貴臣（荒尾市立荒尾第三中学校教諭）

久根下直樹（松本美ヶ原スポーツ少年団）

・助講師

村瀬 晃啓（一般財団法人 少林寺拳法連盟 東京事務所所長）

山西 政宗（一般社団法人 SHORINJI KEMPO UNITY チーフ）

研修会の模様



講義Ⅰ「中学校武道（少林寺拳法）授業で伝えたいこと」
少林寺拳法の授業で伝えたいことをグループで話し合い、ホワイトボードに書き出す



講義・実技Ⅰ「基本・グループ分け」
習熟度に応じて基本動作を確認



講義・実技Ⅱ「模擬授業『主体的・対話的で深い学び』の体験」
ジグソー法を実践しながらグループ内で教え合う



講義・実技Ⅲ「子どもたち・保健体育教員・外部指導者のアンケート調査に基づく実践」
少林寺拳法授業のアンケート結果を共有



講義・実技Ⅳ「道徳統合型の授業
～考える機会を作る、考える時間を作る～」
道徳授業の教材として少林寺拳法を
活用できるかを話し合う



講義Ⅱ「インクルーシブな授業づくりのヒント」
参加者が手話により事例発表を行う



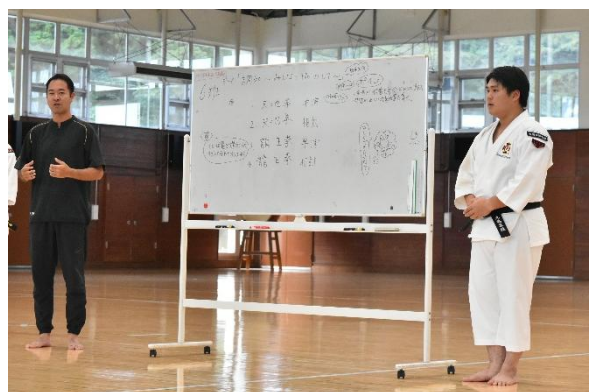
講義・実技Ⅳ「少林寺拳法授業の基礎」
「叱る」が子どもに与える影響を
脳科学に基づいて説明



実習Ⅰ「授業づくり（グループ活動）
～生徒が楽しく学べる授業～」
最終日の演武発表に向けて演武を創作



実習Ⅱ「演武発表」
肢体不自由であり、座ったまま授業に
参加する生徒を想定



実習Ⅱ「演武発表」
演武内容と目的を説明してから演武に臨む



実習Ⅱ「演武発表」
研修会で初めて少林寺拳法に触れた
参加者（右）も演武に参加



実習Ⅱ「演武発表」
かけ声でタイミングを合わせて演武

令和7年度参加者感想（抜粋）

抱えていた不安を解消できる場として、心理的な安全を実感できた3日間でした。発達課題を持つ子供の親、指導者の両面の立場で参加できたのも、大変勉強になりました。研修に参加するまでは、小さい悩みを抱えたまま過ごしており、自分で何とかすればいいと考えていましたが研修会の中で「抱えたままではだめだよ、話を聞くよ！」と声をかけてもらったことが驚きでした。



11月に少林寺拳法の授業をすることになったのですが、どのような授業にしようか悩んでいました。以前であればもっと堅苦しい内容になっていたかもしれませんが、今回の研修会で多くの先生方と意見を交流することにより色々なアイデアを持ち、柔軟な発想が持てるようになったと思います。講義で紹介された中学生に対するアンケート結果では、やはり、「厳しい・難しい」という結果が多く、生徒たちにとって「楽しく有意義」なものにしていかなければならないという気持ちになりました。

未経験で本講習会に参加し、中学校体育科教員として働く自分にとって多くの発見がありました。拳禅一如や力愛不二の教えは、普段の生活に当てはめて考えることができ、生徒にも伝える機会がありそうだなと思いました。国語の授業で漢字の意味を個々に読み取ってみたり、行事のスローガンを考えるときに紹介するなど、教育現場での活用のアイデアが湧きました。また、少林寺拳法に限らない、教育指導についての知識も深めることができ、教員としての幅を広げることができたと思います。実際に技を身につけて、その楽しさを感じられたこともいい経験となりました。



今年度、滋賀県において中学校の少林寺拳法授業を実施する事が決まり、今回の研修は良いタイミングでした。授業を受ける中学生にとって少林寺拳法は真新しいものであると感じることがほとんどであると思われます。一緒にグループにいた方で少林寺拳法に触れるのは全くの初めてで「できない子の気持ちが分かった」ということを言っておられ、声かけや丁寧な指導が大事であると思いました。

今回の研修会で1番印象に残ったことは、「少林寺拳法を教えているのではなく、少林寺拳法で教えている」という言葉です。指導をする立場として、少林寺拳法の技を教えないといけない、という思いがありました。技法や体の動かし方などに初心者の人でも1番興味を持ちやすいものだと考えていましたが、大事なのは技ではなく、少林寺拳法で人を育てることで、技中心ではないことを改めて実感しました。

